

## 低気圧と前線による大雨に伴う災害に係る 第9回災害対策本部員会議での知事的主要発言

### 1. 会議冒頭の発言

- 本日、首相官邸を訪問し、岸田総理、林官房長官に対して、激甚災害への指定など、今回の豪雨災害にかかる要望をお伝えした。

岸田総理からは、  
1月の地震に引き続き、大きな被害に遭われた被災者の心情はいかばかりかと心中お察しする、  
と被災者に寄り添ったお言葉をいただいた。

そして、  
・今回の水害への支援については、地震災害と一体的な取り扱い、同水準の取り扱いについて検討する、  
・各省庁には、地震からの復興途上の災害であることを踏まえ、自治体のニーズに応えるよう指示をした、

との力強い言葉をいただいた。改めて感謝申し上げたい。

- 本日、珠洲市の沿岸部を通る大谷狼煙飯田線の全線通行止めを解除した。これらにより、ピーク時、9月22日には115カ所あった孤立集落は、本日、実質的に解消した。

自衛隊や消防、警察、工事事業者など、人命救助や物資輸送、道路啓開にあたっていただいたすべての関係者の皆様に、改めて感謝申し上げたい。

なお、実質的に孤立集落は解消したが、引き続き、関係機関と連携し、水や食料をはじめとした生活物資をお届けするなど、必要な支援を続けてまいりたい。

- 国土交通省では、TEC-FORCEを被災市町に派遣し、土砂災害や道路などの土木施設の被害状況を調査いただいている。

今回の水害は、県管理河川にも大きな被害が生じていることから、これらの河川の調査も要請したところ、本日から派遣いただいた。

速やかに対応いただき、国土交通省、TEC-FORCEの皆様には深く感謝申し上げます。

- 災害ボランティアバスについては、本日までに、6カ所の被災箇所、延べ309人の方に活動いただいている。

明日28日（土）、明後日29日（日）の両日は、募集定員を235人に拡大し、派遣地区も輪島市の三井と河合地区の被災家屋現場をはじめ6カ所に拡大して活動していただく。

また、日本航空学園の能登空港キャンパス内に開設中のベースキャンプについては、今月末で閉鎖する予定であったが、今回の豪雨に伴い、10月1日以降も継続することとした。

日本航空学園においては、応援職員の宿泊場所としての寮の提供、ボランティアベースキャンプとしての教室の使用の延長について快諾いただいた。梅沢理事長には感謝申し上げます。

明日からは、ボランティアバスの運行開始後、初めての週末となる。泥かきなどの作業を加速させるためにも、一人でも多くのボランティアの方にご参加いただきたいと思います。多くの方にぜひ能登への支援をお願いしたい。

## 2. 会議最後の発言

- 今後、県庁一丸となって対策を講じていくためには、幹部職員の皆さんにも、直接現場を見て、関係者の生の声を聞き、課題を把握していただきたい。

このため、明日からの土日は、できる限り現場に入ってもらいたい。夕方の災害対策本部員会議はハイブリッド方式とし、現場にいる場合は、オンラインでの出席で構わない。

なお、現場に入る際は、くれぐれも被災者や被災市町の皆さんにご負担をかけないようにお願いしたい。

- 孤立集落は実質的に解消したものの、未だ道路・電気・上下水道・通信のインフラ復旧は道半ばであり、引き続き、一日も早い復旧に向けて全力をあげていただきたい。
- この週末は、県内外の多くのボランティアの皆さんにご協力いただくことになると思うが、くれぐれも、ケガや感染症、さらには熱中症などに十分注意して活動いただきたい。
- 現地の一次避難所には、今回の水害による入所者が450名ほど、地震による避難者が249名、合わせて700名ほどが未だにおられる。この方々への生活支援を市町と連携してお願いしたい。